

本日のまとめ

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議議長 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2007地域活動推薦委員長 堀田 力



みなさん、お疲れ様でした。

長い時間でしたが、みなさまの本当に温かいお心が感じられて、すばらしい会になったと思います。

本日の第2部では、すばらしい町づくりモデルの活動報告が8つ続きましたので、これだけ聴きますと日本はもう認知症はだいじょうぶではないかと思ってしまうのですが、これはまだまだ全国的にも稀なすばらしい活動を拾い出したわけでございます。

これをすべての地域に広げていかないと、みんなが安心できるところまでまわりません。どうぞこれからがんばってみんなで広げていきたいと思ひますし、また、そのすばらしいモデルをきちんとまとめて発表いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第1部のほうでは、佐藤さんあるいはサポートされている加藤さんの方から、認知症といつても一人ひとり違うんだと、そここのところをわかつてほしいという大変熱いメッセージがありました。そのとおりだと思ひます。

第2部の中のおりづる工務店の発表では、実際に働いてくださる認知症の方にあわせて、働き方を考えるという、ご本人中心の考え方の話をいただきました。きちんと認知症を支える活動をみんなでやっていくということは、今の子どもたちを生き生きとさせることにもつながっていくのではないかとおもひます。つまり、一人ひとり子どもたちの力を活かしていくということです。また、すべての働いておられる方についても、働かせる側の都合だけではなく、働いておられる方にあつた働き方を考えだしていかなければならないのではないかと考えさせられました。

つまり、認知症の方々をしっかりと支えるということは、認知症の方を支えるだけではなく、さらには子どもから働いている人みんなを含めてそれぞれの人が、もっと幸せに、その人らしく学び、働くことを支えることにつながるのだと思ひます。このことが今日の発表のメッセージでしっかりと伝わつたと思ひます。「認知症になつても安心して暮らせる」社会をつくっていく活動は、もっと全員がしあわせになる社会をつくるという、先端の支え合い事業であるのです。これをしっかりと受けとめて、みんなでとりくんでいきたいと思ひます。

本当に長時間、ありがとうございました。